

平成29年

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会

6月9日

豊明市議会

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会  
会議録

平成29年6月9日

午前10時00分 開会

午前11時02分 閉会

1. 出席委員

委員長	杉浦光男	副委員長	村山金敏
委員	富永秀一	委員	後藤学
委員	郷右近修	委員	清水義昭
委員	近藤ひろひで	委員	蟹井智行
委員	宮本英彦	委員	ふじえ真理子
委員	近藤善人	委員	鵜飼貞雄
委員	毛受明宏	委員	近藤千鶴
委員	早川直彦	委員	山盛さちえ
委員	月岡修一	委員	近藤郁子
委員	三浦桂司	委員	一色美智子

2. 欠席委員

なし

3. 職務のため出席した議会事務局職員の職、氏名

議会事務局長	石川晃二	議事課長	鈴木美智雄
議事担当係長	水野美樹	議事課主事	荻正幸

4. 説明のため出席した者の職、氏名

なし

5. 傍聴者

一般傍聴者 1名

午前10時開会

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、定刻に御出席いただきまして、ありがとうございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を開会いたします。

近藤ひろひで委員は少し遅刻ということで届けが出ておりますので、お願いをいたします。

本日の傍聴については、申し合わせに従い15名以内とし、委員長において一般傍聴者の入室を許可いたします。

（一般傍聴者1名入室）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） これより本日の会議を開きます。

それでは、お手元に配付いたしました議題に従い会議を進めます。

1、議員報酬についてを議題といたします。

さきの特別委員会で、豊明市のこれまでの経緯や他市の状況等について、資料ナンバー2から資料ナンバー7までを学習し、資料ナンバー8でメリット、デメリットを取りまとめいたしました。また、7月9日の広聴会を実施する前に、議員定数について、今の段階で各委員の意見を出し合い、委員間討議を行いました。本日は、議員報酬について、今の段階で各委員の意見を出し合い、委員間で討議を行います。

それでは、今、私が申し上げましたように、今の段階で各委員の意見をお聞きいたしますので、よろしく願いいたします。

（この前と一緒の方法でいいんじゃないの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） その方法については、定数と同じ方法で行っていきます。以前は、こちら側の、窓側のふじえ委員のほうから発言していただきましたので、今回は廊下側の月岡議員のほうから発言をしていただきます。よろしく願いいたします。

月岡委員。

○月岡修一委員 では、報酬に関して私の意見を申し上げます。

振り返りますと、この2年間は本当に議員の皆さんは忙しくなりました。それと、昔に比べれば、インターネット、タブレット等を多用して議会活動をする、そういった傾向にあります。つまり、以前から比べたら、労働時間、そして用いる機器類も個人負担が相当にふえているんじゃないかなと思います。

そういった意味から考えれば、いつまでもいつまでも、私が記憶があるのは、39万9,000円の時代に議員になって、40万ちょっとになって、2回ぐらいちょっと上がって、どんと下がって今の報酬です。つまり、ほとんど23年間動いていないんです。一般会社でもこんなことはまずないと思いますので、やはり実態に即して、諸経費分ぐらいは、僕はもう二、三万は本来ならばアップすべきかなと。今の私の考えはそういう考えです。増額です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。  
一色委員。

○一色美智子委員 議員報酬についても、議員数削減と同じように、下げたほうがよい、上げたほうがよい、現状のままでよいのではないかと、さまざまな意見があると思います。増額される場所も現実にはあると思います。現状においては、今の豊明市では考えられませんが、今後、議員定数同様、議員報酬も含めて削減を唱える議員には、それに賛同される市民の方も多くおられると思います。

しかし、将来的に考えて、住民自治を進める上で、住民に対する裏切りや背信行為にならなければいなくなって思います。住民自治を進める上からも、今回、議会改革のマークをつけられて当選された方、また第1会派の方の意見、結論は大変に大きいと思います。先回、富永議員のマークをつけたときの思いはお聞きいただきましたが、議会は数で決まってまいりますので、ほぼこの方たちの意見、結論で決まっていくと思います。また、市民の方々の……。

（発言する者あり）

○一色美智子委員 これは私の意見ですから。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 静粛に。

○一色美智子委員 また、市民の方々のいたずら的な思考ではなく、本当に今後の住民自治を考えていかなければならないことだと思えます。

議員報酬について、私どもは、自分たちの報酬は自分たちで決めるものではなく、あくまでも報酬審議会に委ねるべきだと考えております。かといって、議員削減も報酬も下げることについて反対をするものではありません。これも市民の皆様の意見を聞いて考えていかななくてはいけないと思っております。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。  
三浦委員。

○三浦桂司委員 少なれば少ないほうがよいという市民がおられるのも現実ですが、やっぱり定数、報酬、いずれ、先回と同じなんですけれども、アセットを進めていく、また

市民負担がふえていく、そういう状況になれば、やはりどちらかを考えないといけないというのが私の考えです。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 まず、削減をしたほうがいいというふうなもちろん住民の声もありましたが、その方々にもちゃんと、今の議員の報酬が幾らかということも御存じない方も多々おありになるだろうということもありますし、なかなかそれを皆さんに、こういう状況でと、ふやしたほうがいい、減らしてもいいという意見も議員の中にもおありだというふうに思いますが、とにかく、この今期の議員だけで勢いで決めてしまう、今のこの議員の中で決めてしまうということも、ちょっと私もどうかなと思いますので、やはり報酬審議会もありますから、そちらにちゃんとこういう状況というものをお示しするのか、それとも、その方々がもちろん御存じで決めていただいていることであろうと思いますので、私は、議員のお手盛りと言うと、ふやすことにもなるのかもしれないかもしれませんが、ふやすも減らすも、やはり報酬審議会に委ねるほうが私はいと思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 毛受委員。

○毛受明宏委員 報酬は、多ければ多い活動もできるでしょうし、少なければ少ないという、それが比例するんじゃないかなとは思いますが、我々も3期、これで11年目になるんですかね。毎年毎年、そのおつき合いというか、会費を払う場所に呼ばれるということが多いわけでありまして、多くても少なくても行かなきゃいけないというところが私どもの使命とっておりますので、報酬審議会ですか、に委ねるというのもあるんですけど、やらなきゃいけないことは確かでありますので、ちょうど真ん中をとるというわけにはいかないんですけど、中間どころで現状維持は最低限必要じゃないかなと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 清水委員。

○清水義昭委員 今、毛受委員もおっしゃられていたんですけど、私、今期から議員をやらせてもらって、活動するところが本当に多い。移動もそうですし、いろんなところで支払うようなことも非常に多いというふうにも実感として感じています。これ、会社にいたら会社の経費なんかで出たりするんですが、実感で思っていたよりも本当に支払う額が多いということを見ると、今よりも減らすのはちょっとしんどいかなというのが実のところの実感です。報酬審議会なんかで審議もされるんですが、少なくとも今の段階では現状維持というような考えでいます。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤ひろひで委員。報酬

についての委員間討議ということで意見をお聞きしております。よろしくお願ひします。

○近藤ひろひで委員 維持もしくはふやしてもいいのかなと思っております。理由としては、議員の年齢はいろいろ、若い人から私たちのような年代もおりますけれど、それなりの志を持って議員になっていただける人にとって、今の現状から減らすということであれば、普通の仕事をして、いわゆる市民としての発信をされる方法をとられてしまうと思ひますので、それなりの、一般的常識、平均というのがわからないので、議員の場合は。会社だと、年功序列で大体給料がわかりますけれど。まだ考え中ですが、感覚としては、維持もしくはふえても、ふやしてもいいのかなというふうに思っております。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 議員報酬は報酬であって給与ではないので、報酬目的になる必要はなく、私個人としては減らしてもいいのかなというふうには正直思っているところがあります。がしかし、民間で、私、今、ことし39になる、もう40、一番子育てとかにも、いろいろとほかのことにもお金もかかってくるので、ほかにも仕事をしていけばいいんですけど、議員だけでお仕事してみえる方もいらっしゃるんで、そうすると、民間の給与ベースで考えると、今の時点で同額もしくは少ないぐらいなんですね。でも、ちょっと御時世から考えると、上げるというのはなかなか言いづらいところもありますので、先ほどからもちょっと出ていますが、報酬審議会の意見に従うのが今理想ではないのかなと思ひます。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。  
近藤千鶴委員。

○近藤千鶴委員 報酬については、市民の皆様にもさまざまな御意見があると思ひますし、この議員間の中でもさまざまな、それぞれの、上げたほうがいい、下げたほうがいい、現状維持がいいと意見があると思ひます。私は、議員は報酬審議会の審議を、決定を受けて、報酬は受け取るものだと思っておりますので、それが一番だと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 蟹井委員。

○蟹井智行委員 今、愛知県の市町村議会の議員の報酬例規ランキングというのを見ているんですけど、名古屋市から始まって54の市町がありまして、もちろん名古屋市がトップなんんですけど、豊明市はどうかなというふうに見てみると、25位が日進市で、豊明市、清須市、知立市が、これ2015年の調べですけど、同額で26位で、29位があま市ということで、ちょうど真ん中なんですね。54市町の中で、ちょうど豊明市は真ん中ですので、まあ私はこれで、現状でいいと思ひます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。  
郷右近委員。

○郷右近 修委員 私の考えは、まず議員については、やはり市民の負託に応えるために、その職務に専念するべきかなというふうに思っています。そういったことを考えると、また、それまでにいろんな、どんな職業とか生活状況の方でも議員として活動できる保障をこの議員報酬ですべきという考えがあります。なので、議員報酬というのは、よりその活動を豊かにするためにも引き上げていくべきではないかというふうに考えています。

それが基本なんですけれど、その上で、現状の国全体の労働者の賃金が伸びない、もしくは下がってきているというふうな状況、市の職員の方も含めて、市民の方も含めて、そういう状況にさらされているということからすると、議員だけが独自の立場で引き上げを強行的にしていくわけにはいかないとも思っています。なので、引き上げを提案し、市民の方から余りにも大きな反発もしくは共感が得られないというふうな判断に至るようであれば、現状を維持するというふうな考えであります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 議員定数と同様、議員報酬も削減することが議会改革だとは思っておりません。現在の報酬水準は、大体月々手取りで30万円ちょっとですけども、1人2人の生活ならいいとしても、家族が3人以上になると、別の収入源がないと厳しいかなというのが実感です。期末手当があるので何とかなっているかなという感じです。

平成24年から報酬月額は据え置きになっているわけですが、統計を見ると、現金給与総額はの間およそ1%上がっておりますので、多少上がってもいいのではないかなとは思いますが、基本的には特別職報酬審議会と、あと期末手当で微調整がいろいろ行われておりますが、それについては、人事院勧告に基づいて行われている当局にお任せすればよいのではないかなと考えております。定数、報酬の検討結果が出ていないということで、2回ほどこの微調整の部分が据え置かれておりますが、この報酬についての検討が終わって、もし変更なしとなれば、この微調整の部分は、遡及はしなくていいですけども、それ以降は戻したほうがいいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 後藤委員。

○後藤 学委員 まだ自分の考えを最終的に決めたわけではありませんが、一般的に報酬といっても、要は私たちの働き、労働の、労働といいますか、働きの質と量によって決まってくるものだというふうに思います。

それで、質の面から見て、それじゃどのくらいの質かと。議員の報酬の給与水準、670万プラスアルファぐらいになっておると思うんですけど、これ、公務員で当てはめると45

歳ぐらいですかね、そのくらいです。二十何年行政の経験を積んできた職員と同等の報酬をもらっているということですので、今それだけの経験を積んだ職員と同じぐらいの仕事ができていますか。議会全体として見た場合、私はまだちょっとそこまではしていないんじゃないかなという、これは私の印象ですけど、質の面ではそういうふうに思っています。

それから、量の面ですけれども、市の職員だと、8時半から5時15分まで、月曜日から金曜日まで毎日働いておられるわけですが、それだけの労働の量があるのかどうか、議員としての。それだけの働きをしているのかどうかという点も、かなり疑問が多いかなと思っています。

それから、もう一つ、先ほど民間との比較の問題もありましたけれども、民間の給与調査ですと、これは非正規も入るからこういうことになるんだと思うんですけど、たしか450万を切っておるんですね、民間の給与水準というのは。それに比べると相当高い報酬かなというふうに思います。

そういったことを考えると、私は本来なら引き下げもあってしかるべきだというふうに思いますが、個人的には引き下げてもらって全く構わないんだけど、個人的なのは置いて、これまでこの額で来ておるので、現状維持ぐらいが妥当かなというふうに思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 宮本委員。

○宮本英彦委員 逆に、私の経験からいくと、今の670万ぐらい、この水準というのは非常に、私の今までの生きてきたというか、経験した中では非常に低いです。先ほど後藤議員は高いと言われた。私の認識は低いです。民間に比べるとはるかに低いです。ただし、民間でも、その統計のとり方によっていろいろ違いますけど。ただ、私が今まで経験した中での670万という水準は低い。

ただし、やっぱりこの報酬というのは、これは一緒ですけど、働き方と正比例していますので、だから、その働き方の中で、この水準がどうなのかというのは、これはもう少し検討しなきゃいけないかな。とはいえ、やっぱり議員報酬とはいっても、先ほどもあるように、やっぱり生活を支える賃金なんですよ。やっぱり生活を支えているから、その生活がやはりきちっとできる賃金、報酬でないと、議員といえども、低けりゃ低いほどいいんだということにはならないと思う。

もう一つは、やっぱり議員固有の賃金というか、費用がかかっているということも確かですね。議員だからということで、こういう経費、支出があるということも確かです。

そういうことからいくと、私も個人的には、今の報酬体系というか報酬水準というのは



引き上げてもいいというふうに思っています。ただし、引き上げるに当たっても、自分の報酬を自分で引き上げるというのは、これはいけない。やはり第三者の委員会がきっちり評価をした上で決めるべきかなと。そういうことからいくと、今、報酬何とか委員会というのがありますよね。その機能をもっと活用して、その中でやっぱり第三者評価をすべきではないかなというふうに思います。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。  
ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 定数と同じで、報酬をふやすか、現状維持か、減らすかという3択の中では、まず、ふやすということは私の中ではありません。実感、感覚としては、私は、この議員になるまでの人生の過程で、私はこの670万というのは非常にたくさんいただいているというふうな実感で至っています。

いろんな皆さんも言われた生活基盤があってこそというのもあります。じゃ、どれだけあれば生活の基盤が持てるかというの、家族構成など非常にさまざまです。今後、いろんな市民負担もふえていく時代になっていくということもあり、必ずしも議員報酬が低いイコール、議員の報酬と議員の質が比例するかという、一概には言えないかなというふうに思っています。

現時点では、私の中では、減らしてもいいというふうに思っていますが、最初に出た、減らすことによるデメリット、有能な人の参画がしにくくなるなどもありますので、現状維持という選択肢もある中で、減らしてもいいというふうに考えています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤善人委員。

○近藤善人委員 私もまだ自分の中で結論は出ていませんけども、定数については、ほかの自治体も減らすところが多い中で、報酬については上げているところもあるみたいなんですけども、そういうことを考えると、上げてもいいかなと思ったりしますけども、でも、市民感覚からいうと、やっぱりちょっと上げるのは難しいなということで、まだ市民の方の意見を聞いていないものですから、何とも言えないものですから、市民の意見を聞いてから自分の中でもちょっと判断したいなということで、今はまだ結論は出ていません。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。

○早川直彦委員 私は、20年勤め、中小企業ですが、勤めていて、やめて議員となりました。やめなきゃいけない理由は、資格があって、継続できないと。ほかの仕事を兼ねている場合は兼任できないという決まりがありまして、やめざるを得なかったと。

確かに、報酬は賃金ではないんですけど、当然うちも家族を養わなきゃいけないと。皆さん全員そうだと思うんですよね。当然、議員の仕事、2期目ですけど、かなり多様な仕事があるんじゃないかなと。時間のとらわれじゃなくて、いろんな市民相談とか、研究とか調査、夜遅い時間にまとめたりとか、相当朝早い時間に市民の相談があればそれを聞くとか、いろんな意味で時間が、例えば正規で働きながら、週40時間の仕事をしながら、じゃ、議員をやるかといったら、これは多分無理だと思います。多分、お断りですというふうに。だから、よほどゆとり、自分で自由のきく仕事をしている人ならいいんですけど、私みたいにサラリーマンをしていてやるということは、まず無理なんですよね。

もし勤めたとしても、どちらかに偏っちゃう。やっぱり働いて生活しなきゃいけないので、議員の仕事、生活しなきゃいけないということを考えると、議員の仕事もしたいけど、生活するほうに当然軸がいつちゃえば、調査したいことも、本当は10調査したいところが5になっちゃうとか4になっちゃうという、逆に言うと、それが市民のためになるのかといったら、すごく疑問に思います。じゃ、上げるべきかといったら、これはもう市民の同意が得られない。

だから、私、賃金を下げろなんて一言も今まで言ったことないので、定数は下げるべきだということは言いましたが、報酬自体のことは全く一言も下げるなんて言ったことありませんので、何か勘違いされている方もいると思いますので、もろ刃の剣となります。やはり今の働いた、いただいている報酬に見合っただけやっぱり働くということが必要なのと、そこはやっぱり、それぞれの議員が今もらっている報酬の中で一生懸命私はやっていると思っていますので、全員がそれぞれの立場で。だから、逆にもろ刃の剣で、報酬を下げた議員の活動を下げるということはよろしくないのかなと思っています。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 私は、定数と報酬はセットで考えるべきだというふうに思っています。この財政状況というか、豊明市の状況を見て、議会費が不要に膨らんでいくということは絶対受け入れられないと思うので、セットで考えていく。

皆さんおっしゃるように、確かに今期になって、この改革や議員定数も含めてですけども、いろんなことを、子ども議会も議会報告会も積極的に行う中で、非常に皆さん多忙になっている。そういうことから考えると、専属的に議会の仕事に専念するというか、兼業ができにくくなるような環境にあるということを考えると、市民の御理解をいただきながら、仕事ぶり、議会の役割と報酬をセットで考えて決めていくのがよいだろうというふうに思います。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 村山副委員長。

○村山金敏委員 私は、先ほど鵜飼委員が言われたと思いますが、報酬は生活給ではない、これが基本の理念になっております。今後、この豊明市も財政厳しくなっただけでまいります。今のサービスが今後も続けていけるかということをお考えますと、減らさなきゃいかんかなとは思いますが、皆さん方の生活ですね、そういったこともお考えますと、とりあえずは現状維持、とりあえずはですよ、現状維持で、またこれ今後も協議していかんきゃいかんかなと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。委員皆様の御意見を、今の段階における意見ですので、これからまだいろんなことをここで、特別委員会で調査研究し、また自分の考えもまとめていかなくてはならないと思っておりますので、きょう発言した内容は、今の段階におけるということをお皆さんで共通認識をしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

それでは、議員報酬についての議題をここで終わりいたしますが、御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、次に移ります。

続いて、議題の2、広聴会についてを議題といたします。

さきの特別委員協議会で、鵜飼委員と富永委員にアンケートの案を作成していただくことを決定し、本日、机上に案を配付しました。鵜飼委員、富永委員、御苦勞さまでした。簡潔に説明をお願いいたします。

その前に、よろしいですか。広聴会の、この表のほうは、正副委員長会で今もんでおります内容のほうです。それから、裏のほうは、11番から始まっているのが、ここでの議員定数と報酬についてのアンケートの内容ですので、よろしくお願ひいたします。表と裏の関係で、番号が少し変わったりとか、いろんなことになるかもしれませんが、早川委員、そういう考えでよろしいですかね。裏と表の関係ですが、ここで押さえておきたいと思っております。

○早川直彦委員 表のほうの8、9、10は、議会だよりのほうはこのような方法でというのは決まっているんですが、1から7までの広聴会のアンケートは、また午後からの正副委員長会で決定します。若干表のほうの数字が変わる可能性がありますので、裏にも影響しますが、数字以外の部分は変わりませんので、変わらないですので、よろしくお願ひいたします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員が今言われたことを前提として確認しながら、それでは、議員定数・報酬についてのアンケートについて説明をいただきます。

富永委員。

○富永秀一委員 基本的には、先日、皆さんにおっしゃっていただいたことをそのまま反映させてあります。その上で、表の部分とレイアウトであったり、全体的なバランスがおかしくなるといけないと思ひまして、内容だけは固めた状態で早川委員のほうにお送りして、全体的な調整をしてもらったという状態です。確認していただければと思ひますが、先日、皆さんの前で確認をさせていただいた内容がそのままになっておると思ひます。

自由記述についてが、この議会だより等に掲載させていただく場合がありますというのは、私は一番最初のほうがいいかなと思ひますが、多分これは正副のほうでやる内容かなと思ひますので、とりあえず、裏面の中で17までのところは、先日確認させていただいた内容のとおりだと思ひます。

読み上げたほうがいいですか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） はい、読み上げてください。確認をします。

○富永秀一委員 とりあえず最初のところで、こういう内容でという、今どういう状況でということを入れたほうがいいということでしたので、豊明市議会では、現在、特別委員会を設置し、議員定数・報酬について検討しています。皆様はどのようにお考えでしょうか。御意見をお聞かせください。

設問としては11番から始まります。議員定数をどうするとよいと思ひますか。ふやす、現状維持、減らす、わからない。そのようにお考えになる理由をお聞かせください。

12番、ふやす、減らすとお答えの方、具体的な人数もお考えであればお答えください。何人。

13番、議員報酬をどうするとよいと思ひますか。ふやす、現状維持、減らす、わからない。そのようにお考えになる理由をお聞かせください。

14番、ふやす、減らすとお答えの方、具体的な金額もお考えであればお答えください。月額何円。

15番、議員定数、議員報酬について、専門家による講演会を開催してはどうかという意見があります。どのように思われますか。開催したほうがよい、開催しなくてよい、どちらでもよい。そのようにお考えになる理由をお聞かせください。

16番、開催した場合、参加してみたいですか。参加したい、参加したくない、わからな

い。

17番、開催する場合、どの程度予算をかけてよいと思いますか。10万円程度、30万円程度、50万円程度、わからない。

以降は全体のことでありますので省きます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

この案について何か御意見ありますか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 このアンケートを配付する、アンケートに記入する前に簡単な説明があるということなので、必要ないのかもしれないですが、問いの12と14のところで、具体的な人数と具体的な金額を書く欄があるんですが、現在の人数と現在の金額も横に書いてあるほうがいいかなと思いました。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、関連して。

富永委員。

○富永秀一委員 一応、表裏で、表面で定数についての情報、裏面で報酬についての情報が一覧できるようなものを、今、表面はとりあえず考えてはあるんですけど、一応、今回の皆さんの御意見も反映させて裏面もつくって、ちょっとそれは皆さんにまた、協議会が何かわからないですけど、確認をしていただいてというふうに思っております。なので、全く何も情報なしで書くということはないということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっとお聞きしますが、その表面、裏面というのは、資料についてという意味ですか。これではないですよ。

○富永秀一委員 資料です。これではないです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） これは、表面がこれで、裏面がこれですから。

（参考資料としてということですのでの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 先回の特別委員会で、別添の資料をつけるということで、ここは具体的な人数を書かなくてもよいというふうに決定しましたので、こういうふうにつくらせてもらいました。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほかございますか、アンケートについて。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 設問とかではなくて、見やすくするために、例えば11と12は議員定数、13と14は議員報酬というので、ちょっと例えば、こうやってくくりをつくったりだとかしたほうが、何の質問かというのが見やすくないかなというふうに、済みません、視覚的なことです。わかりやすいかなというふうに思います。

例えばそれが、またあれですけども、例えば11のときに、議員定数というところだけちょっと太文字にするとか、何かそのときに、13のときに議員報酬とか、もうちょっと視覚が、ぺらっとみんな同じように見えてしまうので、わかりやすくしたほうが書きやすいかなというふうに思いました。済みません。それは内容ではなくて、視覚的なことです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 内容ではなくて、この記述、あるいは市民の方に見ていただくときに、もう少しぱっと見えるような方法かなんかあったらいいかなというような御意見ですが、このアンケートをつくってくださった鶴飼委員、どのように思われますかね。

○鶴飼貞雄委員 やるとするならばですけども、11と13でいいのかなと。議員定数というところに括弧をつけて、13の議員報酬に括弧をつけると。12と14は、あれであれば、問い11でとか、あとは問い10、例えば問い12番だったら、問い11でふやす、減らすとお答えの方は、もしやるのであればそうなんですけど、実際、富永議員が時間かけてつくって精査したやつなので、もしこのままでよろしければこのままでお願いできるとありがたいなど。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 清水委員、意見ありますか。

清水委員。

○清水義昭委員 今、これを私、初めて見たんですけど、これで十分わかると思います、流れ的にも。なので、余り必要ないのかなというふうには感じます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。

○早川直彦委員 清書した立場から言わせていただくと、行数がふえると自由記述の欄が減るから、なるべく字を減らしてというふうにつくりました。例えば11のところに、上の括弧をつける、「議員定数」とするとか、字を太くするとかという方法なら可能なんですけど、ちょっと字をふやすと、行数をふやすとなると、ちょっと字も小さくなるしということで、その辺の配慮をお願いします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 1番から17番まで設問があるので、どこかを著しく強調するとか、そういう必要もないと思いますし、富永委員のセンスでやっていただきましたので、この

ままでいいと思います。

(最終的には早川さんの声あり)

○近藤ひろひで委員 早川さんのセンスでやっていただきましたので、このままでいいのかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 今、少し工夫したらという意見と、このままでいいぞという御意見がございますが、この場ですので、どちらかに決めていただきます。

郁子委員。

○近藤郁子委員 私は、行数をふやすわけじゃなくて、くくりとかあれば見やすいだろうなということなので、つくられた方にお任せをいたします。見ていただいて。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 今、近藤郁子委員のほうから、こういうサンプルをいただきましたが、くくりをやっているということ、そういう。だから、ちょっと工夫があったらいいかなというふうな御意見だと思いますが、これで十分だよという御意見も多数ですので、内容は変わるわけではありませぬので、富永委員、鵜飼委員にお任せということによろしいですか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それじゃ、このままなり、少し工夫を加えるなり、お任せいたしますので、よろしく願いいたします。内容は変わりませぬ。

それでは、このアンケートについての御意見はここで終わってよろしいですか。御意見というか、この話し合いは終わってよろしいですか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 御異議なしと認めます。アンケートについての内容はこれで終わります。

次は、広聴会では、第2部として約40分間の時間をいただいています。3会場に分かれて、この約40分間の統一的な進め方についてを協議願います。

確認いたします。2時間の、全体で2時間ですね、広聴会は。早川委員にもう一度確認しますが、そういう時間の配分をお願いいたします。

○早川直彦委員 時間の配分は40分、議会、今回、今の定数、報酬の部分についてはおおむね40分ということですので、よろしく願いします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それと、2時間ですので、わかると思いますが、70分と、10分休憩を挟んで40分で、ちょうど2時間、120分という計

算になるかと思えます。

それでは、この40分間の統一的な進め方について協議を願います。

この当日の流れがありますので、皆さん、机上に配付されていると思いますが、これをちょっと一読、それぞれ一読してください。2分ほど、二、三分時間をとります。お願いします。

それでは、皆さん、目を通していただけたと思いますので、この中で、1番からずっと行って8番までありますが、その下にアンケートの集計として1、2というふうにありますね。直接この委員会がかかわるところは6番ということですが、第2部の議員定数・報酬について、午後3時20分から4時、ここですが、もう一度皆さん、再度確認ということですので、当日の流れをですね。

どうぞ。

○近藤ひろひで委員 資料をつくっていただいたのは多分早川さんなので、早川さんからざっと説明いただけませんか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、そのことを申し上げようと思いましたが、早川委員のほうからかいつまんで、ひとつよろしく願います。

○早川直彦委員 2枚、机上に配付してあると思います。当日の流れの表裏のものと、当日渡すレジュメです。ともにまだ案ですので、決定じゃありません。きょうは午後から正副委員長会がありますので、ここの中で全体的な流れが決まって本物となりますので、まだこれは案ですので、皆さん御留意をお願いいたします。

裏面のほう、表裏の当日の流れの裏面のほうなんですけど、きょうのここの定数、報酬に関する部分は6に当たります。議員定数・報酬については、先ほど述べさせていただいたように40分、おおむね40分と予定をしております。まず説明、定数、報酬に関する資料の説明、おおむね5分程度なのかなと。その後に司会者が、各議員の考えについて、これは回答しないと。これを言い出すと時間がなくなりますので、そういうことを説明をして、グループに分かれているところはグループに分かれる。人数が少なければ、その中で参加者の意見を聞いていくという形を予定しております。

まだこれも、ここで流れ的なものを決めていただきたいと思うのと、あともう一つお願いがあるんですが、ここの中で決めていただきたいのは、資料はどういうものを使うかというのは、この定数、報酬で決めていただかないといけないですので、必ず定数、報酬の委員会で、今まで出た資料だったら何番の資料を使うとか、新たにつくるんだったらこの資料で説明をするということを決めていただきたいのと、あと全体的な流れですね。全体



的な流れと、こういうレジюмеですね。これは正副委員長会のほうに一任していただけるかどうかということをご踏っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、この委員会にかかわるこの6は次に回しまして、この全体の流れを正副委員長会のほうで取り計らっていかということですが、よろしいですか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御異議なしと認めます。では、正副委員長会のほうでよろしくお願いいたします。

それでは、ここの特別委員会にかかわるところだけをちょっと問題にいたします。そこは6番ですよね、6番。第2部、議員定数・報酬について、私がもう一度確認しますね。

議員定数・報酬に関する資料の説明は5分程度。司会者は各議員の考えについては時間の関係上、回答しないことを説明する。ここも重要ですね。第1部で2つのグループに分かれたところは、資料の説明は合同で実施し、参加者の意見は2つのグループに分かれて行うということですが、この中で、早川委員のほうからも提案がありましたが、特に資料は何を使うかと。資料の説明となっていますが、資料は何を使うかということをご話し合ってくださいと思います。御意見ありますか。

富永委員。

○富永秀一委員 今回の、前回もたしかそういうお話をさせていただいたと思うんですが、表面については一応案はつくってありますが、定数のほうは。報酬については、きょうの皆さんの御意見をお聞きした上で、どういったところを重視されるかというところを反映させたいと思っておりますので、まだつくってはいないんですけれども、とりあえず1つ、メリット、デメリットについては配付をすることとして、もう1枚、表裏で定数、報酬について、現状とどのような考え方があるかというのが一覧できるようなものを配付しようというふうには考えておりますが、もちろん皆さんの同意を得た上でですけどね、最終的に。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） その前にちょっと、こういう点はどういうふうにご考えたらいいでしょうね。今、これ特別委員会で、報酬と定数の特別委員会ですので、ここで認可された、ここで決定された資料を使うということが原則というか、それなんです、今まであった1番から8番まで、資料としてここで認めた資料が1番から8番まであるでしょう。だから、この中を、中身が変わらんように抜き出すなりして、富永委員とか鶴飼委員につくることを認めて、それを使うというふうにご決定していただくか、そうすれば、特別委員会で、言うなれば公表された資料ということになりますよね。それとも、中身はほとんど変わらないけど、少しアレンジするかとね。それも、

そのことについてもお許し、お許しというか、よしとするかという問題がありますね。

資料の扱いというのは、資料の内容については、その扱い、まだこの委員会としての資料ということで、その価値をどういうふうに位置づけるか。また、ありようですね、それをどうするか。簡単なようで難しい。

(できるかどうか聞いてみたらの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御意見ある人。

(御意見というか、2人でねの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 本番が7月9日ということで、もう時間もないはないので、早い段階で、どの資料を使わせていただくか、これは特別委員会で決定していかないといけないことなのですが、現段階、本日の時点ではまだ作成が、今ちょっと極秘裏に富永委員がつくられているということで、ですが、ちょっと出てきてはいない資料なので、それはまた別にしておいて、先ほどの委員長がおっしゃられた1から8の資料、出された資料ですね、それを出すのか出さないのか。量としてはそこそこの量はありますので、全部出すのはちょっと難しいと思うので、そこをどうしたらいいのかをきょうは諮っていただければと思うんですが。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そういうふうに進めたいと思います。御意見のある人。この資料とこの資料を使えばいいぞ、例えばですけどね、こういう御意見のある人。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 豊明市の今の議会基本条例の中の定数を決定するときに、いろいろ書いてあったじゃないですか、人口だとか面積だとかね。そういうことに基づいて定数を考えますというふうに条例であるので、少なくともその情報はお伝えしたほうがいいというふうに私は思っています。

その中で、今ある資料の中で何がちょうどいいかなと思うと、自分たちがつくったもので大変恐縮ですが、資料ナンバー3の追加資料が、現状がわかり、他市町との比較もわかるので、これなどを使っていただくのがいいかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、山盛委員、確認します。要するに、資料ナンバー3を使ったらどうかということだね。ナンバー3だね。

○山盛さちえ委員 3の追加。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 宮本委員。

○宮本英彦委員 そういう要望も出ていますけれど、それも含めて、富永議員と鵜飼議員

に資料の案をつくっていただいて、申しわけないけど、ここで協議して決定していただくという方法が、先ほどのことも含めてね。ということで、資料をここで検討して。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 いずれにしても、定数の資料等を今、作成中なんですね。これから報酬の資料ができるわけなので、いずれにしても、この後もう一回協議会で諮らせてもらって、また特別委員会という流れにはなってくる。じゃないと、多分、特別委員会だけでは、1発目でぼんといっただけ通らないと思うので、その流れは踏まないといけないと思うので。です。そのとき、協議会のときにでも、またもう一回もんでいただいて、やっていただけないですかね。なので、時間ももうないのでタイトですけども、それは開催日は決まっていることなので、それに向けて動いていかないといけないので、皆様の御協力をいただきたいと思います。お願いします。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そうすると、もう一度確認しますよ。もう一遍、その資料について、どの資料を使うかという資料について、協議会とこの特別委員会を持ってという、持って決定せよということですね、手順としては。

富永委員。

○富永秀一委員 要するに、何を使うかというのは、どれを抜くかとかいうことではなく、とりあえず案をつくりますので、いろんな情報を盛り込んだ。それをもとに、これでいいか、どれを変えるべきかというところを話し合ってくださいのほうがいいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。

○早川直彦委員 広聴会では市民の方に出す資料となりますので、確実に委員会の中で諮っていただいたものを出さないと、後で何が出てきたんだというふうじゃいけませんので、必ず協議会を開いた後に、もう一回開いていただいて決定してください。よろしく申し上げます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、全部聞きます。郁子委員。

○近藤郁子委員 今の意見も、そういったことに異議があるわけじゃなくて、そのほかに、資料が決まって、説明する段になって、これは5分間程度ということになっていますので、資料説明も本当はシナリオがあったほうが、どこの会場でも同じものが言えるようにしていただけるといいなと。大変ですけども、それもないと、各会場、説明の仕方が違うということでは公平性が保てないんじゃないかと思っておりますので、ぜひお願いしたいと。たたき台をつくっていただけるとありがたいなと。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 一応、そのシナリオまでつくらなくても、その資料を見れば簡単に説明できる、また見ればわかるような形にしようかなとは思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 皆さんの、じゃ、注目してください。皆さんの出た意見を総括すると、協議会を持って委員会ね。だから、日程的な問題もありますけども、とにかくそれを開くということで御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、その開き方について、同じ日に協議会をやって委員会をやるよ、あるいは別々にやるよとありますが、この資料だけの問題です。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 協議会は先に開くんですけれども、その協議会で出した資料の大幅な修正がなければ、その日のうちに、1時間、2時間挟んで特別委員会を開催することもできるかもしれませんが、いかんせん、まだ草案の時点ですので、協議会で随分変更箇所が出てくる可能性も往々にしてありますので、もし可能であれば、この6月議会の中の忙しい中ではありますけども、別の日のほうがいいのかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、大体皆さんの御意見がまとまりました。とにかく資料を作成する。それは富永委員と鵜飼委員、よろしいですか。富永委員と鵜飼委員に引き続いてお願いすると。そして、それを協議会と委員会で、協議会と委員会を開き決定すると。そのことで御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、次、日程ですが……。

近藤ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 今の6番の説明の、司会者は各議員の考えについては時間の関係上、回答しないことを説明するとなっているんですけど、じゃ、時間をとればいいんじゃないと言われる可能性もありますので、これ、議員間で現在協議中のためというふうにしなないと、時間とうたうのはちょっとやぶ蛇になる可能性がありますね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ひろひで委員のほうから、この第6番目の40分の持ち方についての考え方、重要な部分だと思いますが、御意見がありましたので、このことについてお諮りいたします。御意見ありますか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、ひろひで委員が申されたように、時間の関係じゃなくて、現在まだそういう話し合いというか討議中なので回答しないと、こういうふうに変更することでよろしいか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御異議なしと認めます。じゃ、ここの語句を変更いたします。

早川委員。

○早川直彦委員 ちょっと再確認ですが、司会者は、各議員の考えについては、議員間での協議のため、回答しないことを説明するでよろしいでしょうか。

（協議中の声あり）

○早川直彦委員 議員間で協議中のためですね。

（はいの声あり）

○早川直彦委員 議員間で協議中……。

○近藤ひろひで委員 もう一回言いましょうか。

○早川直彦委員 はい、お願いします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、ひろひで委員、もう一遍言ってください、提案者。

○近藤ひろひで委員 各議員の考えについては、議員間で現在協議中のため、回答しないことを説明する。

○早川直彦委員 議員間で現在協議中のため、回答しないことを説明する。わかりました。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ここの語句について変更することで再度確認します。よろしいですね。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御異議なしと認めます。

そうすると、日程については、この……。

それでは、アンケートにかかわることについてはよろしいですか。このアンケートにかかわることについてはこれで締めますが、よろしいでしょうか。先ほどの日程については、この後の……。

（流れの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ごめんなさい。流れについては締めます。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 一番最後の3つ目のぼっちで、2つのグループに分かれた場合ということが書かれていますが、そうなった場合、それぞれのグループで、ちょっとイメージがついていないんですけど、順番に話をしていられるわけですね。5人のグループが2つあれば、5人がそれぞれに同時に話をしてみえると、そういうことですかね、順番に。それを、こっちのグループはこっちのグループで出てきて、当然聞けないわけだから、全然知らない、共有はできていないんですけども、そういう参加された人の中でこんな意見が出ましたねということ、2グループに分かれた場合の共有みたいなことはするのか。聞きっ放しとか言いっ放しとか、それで終わっちゃっていいのか。どういうふうに行うすればいいんですかね。1つの場合はいいけど、2つの場合ね。必要なければいいし。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 当日にならないとわからないと思うんですけど、すごい人数になる可能性もあるし。だから、この意味は、要は、例えば10人だろうが30人だろうが、最初にその全体に対して説明をして、そこから2グループとか、もしくは3グループに分かれてやりますよということで、そのグループにそれぞれに、私たちが全部のグループに参加できないので、共有はできないですよ。

○山盛さちえ委員 できない。できなくていいということですね。

○近藤ひろひで委員 できないでしょう、物理的に。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 要するに、この3会場に既に分かれている時点で、それぞれに出た意見は、最終的に統合した形で共有はしますけれども、その場で出た意見について、それで討議をするわけではないので、できるだけ間口を広げて、できるだけ多く聞くために、時間をとるために分かれるという意味ですので、そこはその場で共有できていなくてもいいのではないかなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、もう一度確認します。この当日の流れについては、これでよしということによろしいですか。

宮本委員。

○宮本英彦委員 単純なことだけど、2グループに分かれた場合って、これは会場によるけれど、その分け方を、例えばおおよそ、さっき20人ぐらいから100人ぐらい来た場合とか、全然そのときにならないとわからないんですけど、それはそのときの会場の責任者にお任せということでもいいんですか。そうだよ。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは確認しますよ。これは委員会ですので、きちっと確認してね、公表される問題ですので。

○宮本英彦委員 だから、2グループということで限定をする必要性がないんじゃないかという、その会場に応じてね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 当日の流れの、当日の流れというか、裏面の分ですかね、1番を見てもらうと、この1番のところでは既に記載されているんですよ、グループ分けをするかしないかというのは。なので、これの内容に関しては正副委員長会のほうの分野になりますので、これは正副委員長会で諮ってもらったほうがいいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 この2グループの2をとれば、つじつまが合うと思う。グループに分かれてというふうにしておけばね。

（各グループの声あり）

○近藤ひろひで委員 グループにしてあげばいいんです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 当日の流れ、それに従う内容について御意見をたくさんいただきましたが、正副委員長会で詰めるということによるのでしょうか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御異議なしと認めます。

それでは、きょうの委員会は以上をもちまして終わりますが、この委員会で絶対的に御意見のある方ありませんか。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） なしと認めます。

それでは、この後、協議会でちょっと詰めますので、日程等を詰めますので、よろしくお願いたします。特別委員会は終わりです。

午前11時2分閉会